



富山市教育センターだより  
第44号  
令和元年12月24日  
富山市八人町5-17  
TEL 076-431-4404  
<http://www.tym.ed.jp/c10>

- 学校教育課発
- 教育センター発
- 初任者・新規採用教職員紹介
- 学校・園紹介

(題字「道」明瀬 正則)

## 「教室の近未来予想図」

富山市教育委員会事務局次長 豊田 高久

先日、NHKのテレビ番組で、AIを使って美空ひばり人形をつくり、没後30年の記念として、新曲を歌わせるという企画が行われました。その詳細(検索AIひばり)は割愛しますが、美空ひばりは、ライブ会場で、往年のファンの目の前に蘇ったのです。

私にとっても、AIひばりのステージは、「歌手とは異なり、子どもと双方向のやりとりが必要なAI教員は、かなりハードルが高いものの、近い将来、必ず、何らかの形で教室にやってくる」と思われるものでした。

脳科学者の茂木健一郎氏は、著書の中で、AI時代に生きる人間が大切にしていけるべき能力として、「コミュニケーション」、「身体性(自らに適度な負荷をかける力等)」、「発想/アイデア」、「直感力/センス」、「イノベーション(異端・変化・共生等)」の5つを挙げておられます。これら5つは茂木氏がAIの苦手な分野であると指摘するものですが、私には、これまで少なくとも、「生きる力」が出てくる前から、教員が日々の授業に求め、研鑽を重ねてきたものと同じに思えてなりません。

つまり、教員にとっては、「AI時代の到来の前から、AIの苦手なことを大切にしてきたことが、AI時代には、これまで以上に大切になる」という、何とも有り難い話なのです。

しかし、この有り難い話には、これまでの時代にはなかった続きが二つあります。一つは、「AIの苦手なことを大切にしなかったら、つまりAIの得意な分野(記憶・計算・検索・解析等)の授業ばかりをしていると、AI教員にその座を乗っ取られてしまう」というものです。

もう一つは、「AIの苦手なことを得意とする教員は、AI教員ともうまくやっていける」というものです。AI教員の得意分野には、人間が逆立ちしてもかなうはずがありません。だから、AI教員には、得意分野を任せて、自分はAI教員ができない授業を行うといった役割分担ができるということが、この続き話の根拠です。

AIひばりには、ワンマンショーができましたが、AI教員には、そのよさを生かしてくれる人間教員が必要なのです。現在のICT教育は、後世から振り返ると、こうした役割分担の助走になっているのかもしれませんが。近い将来、AI教員とTTをしたり、少人数指導をしたりできるよう、今から、AIの苦手な能力を、さらに高めていこうではありませんか。

「きっと何年たっても・・・」、教室の主役は、子どもたちと我ら人間教員なのです。